

ボランティアコーディネーター ニュース

支 援

第 87 号 2017 年 5 月 26 日

町田市教育委員会

指導課長 金木 圭一

発行：町田市学校支援センター

学校支援ボランティアコーディネーター説明会

本年度の町田市学校支援ボランティア活動は、新規着任者 10 名（他校から異動の新規着任者を除く）を含む総勢 91 名のボランティアコーディネーター（VC）によって推進されます。そのスタートとなる 2017 年度学校支援ボランティアコーディネーター説明会が、4 月 12 日（水）に教育センターの大会議室で開催されました。

冒頭に八並教育委員長職務代理者から学校支援ボランティア活動への協力とご尽力とへの謝辞、また活動にあたっての拠り所とすべき学校支援センターの紹介がありました。

金木指導課長は挨拶の中で、ボランティアコーディネーターへの敬意を表明するとともに、VC の役割について簡潔に説明をいたしました。――



「VC は子どもたちの教育・育成のために、学校・地域間の調整、人材確保、学校・地域の連携推進を行う役割を担っています。学校は地域コミュニティの核であり、地域の学校として地域の子どもの学び・成長に責任を持つものです。それは教材の手配のみならず、体験によるふれあい等を通して深い学びの機会を子どもに与えることであり、それらはむしろ地域に愛着を持つ地域住民である VC の支えによって一貫したものにできるものと考えられます。新しい指導要領では社会に開かれた教育課程を学校が地域と共に作り上げていくとされています。つまり、単なる地域による学校支援ではなく、学校と地域が協働して子どもを育てる学校地域協働活動が展開されることとなります。VC の役割はその要になるところにあると考えています。」

委嘱書は、本年度新規着任者のお一人である小山中学校の光田みゆきボランティアコーディネーターに、VC 全員を代表して受け取っていただきました。

学校支援センター事業に関する説明は、熊木統括指導主事による学校センターの発足、現在、

そして将来に亘っての学校支援事業の体制に関する概括的な説明から始められました。――

「学校支援実行委員会が発足したのは2008年です。2011年4月に要綱に基づく学校支援センター事業が進められて7年目になる今年度は、全校に地域連携担当教員が置かれる体制となります。副校長だけが相談の相手ということではなくなると思われます。教育計画に基づく豊かな学びについての学校の要望が受けやすく、より効果的な支援が期待されます。また、向後5年に亘って移行が進められる新体制では、従来の6地区を改編して10地区とし、各地区に1名の地区統括ボランティアコーディネーター(仮称)が配置されます。自地区・近隣地区のつ



ながりを深め、他の地域活動とのつながりを強めながら学校支援を進めることができます。学校支援センターは支援内容・方法・情報などについて、各地区統括VCを通して支えていく体制となります。VCが子どものよりよい成長に大きい意味を持っていると考えています。」

続いて2017年度事業について、活動の意義・目的や進め方、事務処理手続きなどを中心に説明がされました。――

「本市の学校では子どもたちに真の学力、社会や世界にかかわりあい、向きあっていける力を身につけさせることを目指して教育活動を進めています。そのためには、すべての子どもがしっかりした基礎学力を身につける学習活動、また、直面する課題の発見・解決能力を身につける学習活動に取り組むことが肝要であると考えています。そのために必要な基礎学力習得の支援、また考え深い学びや豊かな体験活動の支援を、学校のみだけでなく地域の教育力に依拠して進めようとするものです。VCは学校と地域のつなぎの役割を果たしていただくものであり、学校と地域が協働して子どもを育てる要となつていただくものです。

これは、学校のみだけでできるものよりも遥かに深く豊かな学びの場を学校に用意する支援であると同時に、学校が地域住民の力を発揮する場となることでもあり、また地域住民との接触をとおり、地域社会の一員たる子どもを育てる場となるものです。さらに、VCを仲立ちに地域住民が支える学校は、地域の子どもの学習を継続的に進める地域の学校となります。こうした学校支援センター事業(地域学校協働活動)の目標の実現に向け大きな原動力となるのがVCです。

本年度からは、全校において年間指導計画に基づく計画的・系統的な地域学校協働活動が展開される見通しです。そのために、知らせる、つなげる、支える活動をさらに活発に展開していただきたく、お願いいたします。」



休憩の後、VCの定型業務、事務処理等についての説明、そして3R推進課からの「ごみと

環境についての出前講座」の説明がされました。最後に新規学校支援ボランティアコーディネーターが紹介され、説明会は終了となりました。

三輪小学校3年 「柚ヶ谷戸 里山授業」

5月11日（木）に三輪小学校の3年生が、近隣の里山を散策し、柚ヶ谷戸でカブトムシの幼虫採りをする校外学習に取り組みました。谷戸の自然を守る活動を進める「三輪みどりの会」の支援を受けて行われる、里山の自然観察と動植物の飼育栽培活動です。

学級担任3名とボランティアとして参加した学校支援地域理事、及びVCの計5名に引率された児童は、まず近くの畑で「ツタンカーメンの豆」の生長の様子を観察します。三輪小の児童のために地域から提供されたエンドウ豆です。後日に収穫されるこの豆は、給食の材料として児童のもとに届きます。さらに「どんぐり畑」に寄り、児童たちが植えたどんぐりの木の生長の様子を確認します。「どの木だっけ」「私たちののはこれだ」などと声が飛び交っていました。



里山の道は林の中に続きます。三輪みどりの会のメンバーが事前に草取りをし、整備をしてくれた歩きやすい道です。「カブトムシの家(うち)」は木の柵で囲われており、2年前に集めた落ち葉が積み重ねられています。三輪みどりの会のメンバーによるカブトムシの成長や飼育についての、また今回の作業についての説明を受けた児童は、3つのグループに分かれて順次活動します。カブトムシの幼虫、えさになる腐葉土、家になる土の採集です。現5年生、4年生が集めた落ち葉には3年経った今、運よくカブトムシが育っており、3年生はそれを学校に持ち帰ることができる機会に恵まれたということでした。「こわい…、かわいい」「あっ、でけーのさわってるよ!」「ぷよぷよだぁ」などと声を上げながら採集していました。

他のグループは待機と周囲の自然観察を順次並行して行います。自然観察は用意した虫めがねを手に、植物や昆虫の観察です。あちらこちらから「えーっ、これなあに?」というような声が聞こえてきました。



地域の環境を活かした里山授業が三輪小学校の毎年度の取り組みとなって5~6年経ちます。指導には大きな負担がある授業ですが、VCがそれをしっかり支える役を担って進められている学習です。三輪みどりの会の支援は、学校支援地域理事のつながりによって得られています。

1・2年目学校支援ボランティアコーディネーターミーティング

1・2年目学校支援ボランティアコーディネーターミーティングが町田市役所市民協働おうえん



んルームで、8名のVCの参加で開催されました。活動経験の浅いVCに、基礎的な知見を深めていただくための研修の場として実施されたものです。

先立って開催された学校支援ボランティアコーディネーター説明会と重複する部分も多かったのですが、例えば学校支援センターの所在する場所を確認することなど、極めて基礎的・基本的な、しかし必須の内容の研修でした。

報告書の作成などのVCの定型業務について、活動の基本となる学校を知るための手立てのあれこれについて、想定される活動のあれこれについて、MGNの概要について、ボランティア登録・登録内容の活用の仕方・連絡の取り方についてなどが事務局から説明されました。

引き続き、経験豊かな南成瀬小学校VC・つくし野中学校VCから、それぞれ実践に裏打ちされた助言がされました。地域の人材をつなぐ手立て、学校の教育活動を支える手立て、学校の教育活動を豊かにする手立てなど、実に有意の助言がされました。経験豊かなVC3名が3名ともに、地域の人々とのつながりを深める大切さを強調していたことは印象的でした。



参加VCによる情報交換協議での積極的な発言には、それぞれのVCの意欲が大いに感じられ、圧倒される思いでした。

第1回 小学校地区別及び中学校合同 VC ミーティング

中学校	6月8日(木) 9:30~12:00
小学校第1・4地区	6月9日(金) 9:30~12:00
第2・5地区	6月13日(火) 9:30~12:00
第3・6地区	6月14日(水) 13:30~16:00

※場所 町田市役所2階市民協働おうえんルーム

学校支援連絡会(出席は各校の連絡委員です)

6月29日(木) 14:00~ ※場所 町田市役所3階大会議室